



# 参画だより

No.41

2010. 7. 31

弘前市民参画センター

PICK UP!

男女共同参画の視点で読む  
世界の格言・名言

思いやりのある言葉は  
短く簡単なものであっても、  
その反響は実に無限である。

マザー・テレサ

弘前市民参画センター事業紹介「さんかくネット・子育てサポーター研修会」ほか P 2・3

まなぼ「人は何のために生きるのか」第1回 P 4

おとこの気持ち聞いちゃいました「男女共同参画通に会いました」 P 5

さんかくひとりごと「こんな経験ある？」 P 5

ひとグループ紹介「子どもと女性の中で自分も成長する」 P 6

利用者・利用団体紹介「青森県民芸協会」ほか P 7

本の紹介「天使のかいかた」 P 8

センターからのお知らせ P 8



「さんかくネット」子育てサポーター研修会  
 「ペアレントトレーニング」と「若い親子の日常の様子や身近な材料によるおもちゃ作り」



ペアレントトレーニングについて  
講演する三浦さん

5月20日、弘前市の子育てサポーターシステム「さんかくネット」の研修会を市民参画センターで開催し、子育てサポーター約20人が参加しました。

「さんかくネット」では、市内に住む子育て中の家族の社会参加を支援するため、登録しているサポーターによる子どもの一時預かりをはじめ、講演会、演奏会などのイベントや冠婚葬祭時の出張保育などを行っています。今回の研修会は、子どもや親とのかかわり方について、より実践的な知識をサポートに身につけてもらうこ

とを目的として開催しました。

研修会は午前と午後の2回に分けて実施し、午前の部では、発達障害児の支援を行っている施設「ライフサポーターあおば」主任支援員の三浦康雄さんが、「ペアレントトレーニング」をテーマに講演しました。

三浦さんは「『ペアレントトレーニング』は楽しく子どもとかわるためのアドバイス」と解説。「子どもの行動には必ずきっかけとなる出来事がある。行動の裏側を読み取ること、子どもとのかかわり方を工夫し、困った行動を減らしてよい行動を増やしていくことができるようになる」とこのトレーニングの考え方と期待される効果を説明しました。

また、サポーターが子どもの困った行動に悩む親から相談を受けた場合の対応について、「親と一緒に考え、なぜそのような行動をとるのかというきっかけに親自身が気づくように導いてあげるとよい」と提案しました。

午後の研修会では、みどり保育園副主任保育士の小山洋詞子さんが、家庭にあるもので簡単に作れるおもちゃの作り方を紹介しました。

折り紙でテレビアニメのキャラクターを作ったり、トイレトーパーの芯と紙コップでロケットを作ったりと、出席したサポーターたちも談笑しながら楽しそうに小山さんの指導を受けていました。

また、小山さんは保育園や子育て支援センターなどで多くの親子に関わってきた経験から、近年の子育て環境の変化と、それに伴って要求される子育て支援について話しました。



完成した紙コップ製ロケットで  
打ち上げ大会



おもちゃ作りを指導する  
講師の小山さん（写真右）

小山さんは、全国的に児童虐待の件数が増加の傾向にあることから、子育て支援において「単に子どもだけを見るのではなく、親の様子にも気をつける必要がある」と親に対するサポートが求められていることを述べ、「支援センターの情報や子育てに関する相談窓口の情報も常に持つておくように心がけてほしい」とアドバイスをしました。

さらに、よりよい親子関係を作るためのヒントとして、小山さんは子どものしかり方やほめ方のよい例と悪い例を示し、「子どもへの声かけや親とのコミュニケーションにも役立ててほしい」と話しました。

6月30日、市民参画センターで「第1回ひとにやさしい社会推進セミナー」を開催しました。

このセミナーは、男女それぞれがお互いの存在を認め合い、思いやり、支え合い、すべての人が自分らしく生きることができ「ひとにやさしい社会」の実現を目標として実施しています。

今回のセミナーでは、弘前川柳社副主幹の高瀬霜石さんが「楽しい川柳で共同参画く笑う門には福来る」と題して講演を行いました。

高瀬さんは「川柳は人間をうたう庶民の文芸で、イコール男女共同参画といえる」と話し、さまざま



高瀬さん作の川柳  
「いちにちを大事に生きるよく笑う」



川柳の穴埋めクイズの正解者には高瀬さんから景品が贈られました。

まな川柳を例にあげながら、川柳の楽しみ方や家庭円満のコツについて紹介しました。

その中で高瀬さんは、「川柳は弱いものいじめをしないことがルール。権力のある人を風刺するのはよいが、人を傷つけるような作品はつくってはいけません」と川柳をつくるうえでの基本的なポイントについてアドバイスしました。

セミナーの後半では、時事川柳を使った穴埋めクイズも行われ、参加者は川柳に親しむとともに、地元ラジオ局でパーソナリティを務める高瀬さんの軽快なトークで男女共同参画社会について楽しく理解を深めました。

## 「さんかくネット」つどいの広場

6月13日、「さんかくネットつどいの広場」を市民参画センターで開催し、乳幼児をもつ保護者とその家族、市内の子育てサポーターが交流を深めました。

広場では、管理栄養士の福土すみ子さんを講師に、「かんたんクッキングでしっかり食べよう～レンジやホットプレートなど火を使わない調理法～」について学びました。福土さんは、簡単・スピードをポイントに身近な材料を使ったおしゃれなランチを実演しました。

また、生活の中でどうしても削る事のできない“食べる事”食育についての話もしました。

「お金で買える食べ物が反乱している現代事情の中で、出来る範囲での手作りの大切さや、いろいろな物を食べることによってそれぞれの欠点を補うためには、素材の長所、短所を知る事が大切です。“手作りは味覚としての思い出を作る事が出来る”」と運動会でのお昼ご飯の思い出を例にあげ手作りの良さを説明しました。



参加者にアドバイスする福土さん



参加者たちとのフリートーク

# まなぼ

## 「人は何のために生きるのか」 第1回

### 〈学びの後も……〉

「弘前きらめき女性塾」で学んだ、年齢も立場も異なる111名の仲間たち。卒塾から年を経て、学んだ理論・知識を現実社会の中でどのように生かして過ごしているのでしょうか。立ち返ってみましょう。

## 当たり前の権利

平成11年、弘前市では「男女共同参画社会」の実現に向けて、女性のエンパワーメント事業のひとつとして「弘前きらめき女性塾」を開設しました。1期生から4期生まで111名が、1期2年間の研修を通して社会のさまざまな分野へ参画していくための幅広い知識と行動力を身につけました。私はその中で2期生として、2年間で年齢も立場も異なる多くの仲間と学びました。

豊かで、活力ある社会の実現。それは男女が「性別」にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮することのできる社会。そんな社会づくりを目指していくことが男女共同参画社会基本法の考え方と教えられ、私たちの活動の原点になっています。

ところで、いったい人は何のために生きるのでしょうか……。

ある人はこう話してくれました。

「日本語では『わたしは生まれた』というけれど、英語では『I was born. (わたしは生まれさせられた)』と受け身で表現する。人が生きることの目的は、生まれたら死ぬまで生きることであり、その次に目標としてどう生きるかということが出てくるものであって、人間も生物の中のひとつにすぎないものだと思う」

その言葉のように、だれもがその時その時の目標のために一生懸命に生きていくことが大事なことはないのでしょうか。

問題のない社会はなく、人生においても乗り越えなければならないことや矛盾はあります。だからこそ「みんなちがって、みんないい」と当たり前の権利を認め合い、支え合い、生きていることを喜びたいと思うのです。



### 「きらめき会」（平成22年度連載担当）

きらめき会は、会員相互の協力と親睦を図るとともに、男女共同参画社会を目指すことを目的にした「弘前きらめき女性塾」の卒塾生でつくるグループです。（第1回原稿担当：きらめき会会長 安藤カツ）



Q. 男女共同参画って、知っていますか？

A. 知っています。同僚が熱く語ってくれたので。

Q. 自分の育った家庭では（父と母の役割）  
どうでしたか？

A. 家業が農家だったので二人で協力していたと思う。ただ、母の縫い物で大学へ行かせてもらったという思いがあるので、母の方が役割は多かったのかな。

Q. 結婚したら、パートナーには専業主婦になってほしいですか？（経済的に問題がなければ）

A. 子育てに支障が無ければ、自由です。

Q. 父親も育児休業を取る事ができることを知っていますか？

A. 知っています。民間はまだ取りにくいですが、公務員は奨励している。

Q. 今の女性、これからの女性に望む事がありますか？

A. 昔ながらの、先人達の知恵を一つでも受け継いで欲しい。

おとこの気持ち  
聞いてみました



40代・公務員・独身

インタビューを終えて

### ～男女共同参画通に会いました～

真面目な性格の中にもロマンチストさが見え隠れしていました。

職場でも自然に男女共同参画を実践しているように感じられました。

梅

## こんな経験ある？

### ～夕食後の居間でのできごと～

その場から立ち上がった娘のお尻から「プッ」とオナラが、「あら、でちゃったあ。失礼！」きまり悪そうに娘。「なんだ、女のくせに人前で。少しは遠慮しろ！」と父。「わあ、お父さんだってもっとすごいのをするじゃないの。」と娘。「一緒にするな！」と父。

それを聞いていた母

平然とすごいオナラをぶっぱなす夫より、「あら、失礼」とペロッと舌を出した娘のほうがよっぽどかわいいかもと・・・。

（生理現象に男も女もないんじゃない？）

### ～孫の誕生日プレゼントを買った時のこと～

販売員の女性に「おりボンの色は何色にいたしましょうか？」と聞かれ、「そうねえ、赤が好きだから赤にしておうかしら！」

「あら、女のお子さんだったんですね。お品が車だったのでてっきり男のお子さんだとばかり思っていました。」

「えっ、男の子ですよ。」

「ああ、そうでしたか・・・」

何ともしっくりしない会話で終わってしまいました。

比較的若い女性だったのに、品物やリボンの色から性別を決めつけたような言葉にちょっと驚いてしまったおばあちゃんでした。

（そういえば「女の子コーナー」がピンクピンクしていることも・・・）

社会的文化的性差といわれる「ジェンダー」。「男だから」とか「女なのに」という考え方に縛られてしまうと、女性にとっても男性にとってもつらいことが多くなるのではないのでしょうか。



さんかくひとりごと

# 「子どもと女性の中で自分も成長する」 家庭編

保育士 對馬大輔さん



～對馬大輔さん～  
昭和54年生まれ  
みどり保育園勤務  
家族は妻と  
子どもふたり

保育士として活躍している對馬大輔さんに、職場やご自身の家庭での出来事などのお話を伺いました。2回に分けてお伝えしています。2回目は家庭のお話です。

## ☆家庭での役割分担などは？

共働きなので、私は家事もやりますが、家事は妻の自分流のやり方があるらしいので、育児を主に担当しています。私が家事や子育てをやっているからというわけではないのですが、今はけっこう昔と違って買い物なんかでも、旦那さんが子どもを抱いて奥さんがカートを引く姿や、旦那さんが子どもを遊ばせ



園児たちに大人気



子育てだって  
“やって当たり前”で  
はなく褒められれば  
嬉しいことです。

て奥さんが買い物をするというのを目にすると、今ではそれが主流になっていくのかなと嬉しく思います。我が家でもみんなが、私が子どもたちと留守番をして妻をひとりで出してやることもあります。女性はひとりになる時間がかかなり貴重らしいので、そういう時間を作ってあげようとしています。

## ☆家族への思い

わが家には6歳と、2歳になる男の子がいます。実は下の子というのは双子だったのですが、妻が切迫早産で入院。3ヶ月ほど早い出産となり、十日後ひとは亡くなってしまいました。当時4歳になる上の子も亡くなった弟を見て大泣きして悲しみま

した。3ヶ月後入院していたもうひとりの弟にやっと会えたときは嬉しかったらしく、「この子を大切にしないと」という気持ちで芽生えたようです。妻も深く苦しんだと思います。その思いが離れないので、窮地に立った時こそ強引にならないように私が引く張って行き、これから大切にしてあげなくてはと思っています。

家族と共有した深い悲しみがあつて、深い絆で結ばれているような気がします。

## ☆自分にできること

育児に関して悩んでいる人がいたら、自分の経験を話していただきます。私が苦しかった経験を同じような苦しみを持つ人に話をするような『語り手』になるというか、経験をした人じゃないと言えないことがあると思います。こういう仕事をしているとそういう人にたくさん巡り会います。誰にでも悩みはあるこ

となので、向こうから言ってくるのであればお話を聞きます。去年カウンセラーの資格も取りました

私は体力だけで言えばすごくあるのに、妻の出産を目の当たりにすると、「女性って強いな、すごいな、母性の強みには勝てないな」と思ってしまう。妻の妊娠中に無理をさせてしまったの思いがあるので、職場でも妊娠している同僚のことは気にかけるようにしています。女性には迷惑をかけたくないの思

いから無理しがちですが、でも、「ここは無理をするところじゃないんだよ」これだけは伝えていきます。  
園に来る若いお父さんたちが頑張っているのを見て、それに勝る刺激はありません。本当に心からはほえましいなと思つて見えています。良い意味で男性側の立場での子育てのバックアップをしていって励ましていきたいと思っています。

## 《青森県民芸協会》

### 民芸品から心豊かな暮らしを



味わい深い民芸品の数々

青森県民芸協会は、今年で創立六十八年になる歴史がある団体です。県内各地に支部があり、弘前支部は、成田貞治支部長（弘前こぎん研究所）を中心に活動しています。

民芸品とは、一、脇役である。

中に盛る料理や花が主役で、日々の衣食住に使われる雑器です。

二、優れた実用品。丈夫で素直で、使い心地が良く、使って飽きがこない工芸品のことです。



三、使うほど美しくなる。使用するたびごとに味わいが増し、美しくなり、気持ち安らぎ、心豊かにする日用品です。

民芸協会では新作古作等の民芸品の良さを知っていただくため、これまで『くらしの美行事展』を二十二回開催して来ましたが、昨年第二十一回は弘前文化セ

### センター利用者に突撃インタビュー

#### 70代・男性

##### ◆当センターの利用頻度と利用目的は？

（財）日本郵趣協会弘前支部月例会と、会報発行の編集のため月1回利用しています。以前は弘前郵便局や弘前文化センターを利用していましたが、郵便局が民営化してから当センターを利用するようになりました。印刷機の利用では、センター職員の親切な指導に感謝しています。

##### ◆「男女共同参画」という言葉を知っていますか？

知っています。あまり男だから、女だからというのにはこだわらずに、お互い仕事や自分の時間を有効に使うためにも役割分担などをしながら自分の出来ることを工夫して協力し合うことで、ひとりの負担が少なく暮らせると思います。

##### ◆家では家事などをしますか？

我が家は娘夫婦と2世帯同居なので、平日は妻と分担してやっています。娘夫婦が休みのときは交替しています。平日は妻と時間交替しながらしているので運動や、趣味を十分に出来るのが健康維持の秘訣になっています。

##### ◆今一番の楽しみ（興味・趣味）は？

「切手展」の記念ファイル作成、諸事務の整理や人と話すのが好きです。そのせいか我が家にはいつもいろんな人たちが集まって来ます。

##### ◆当センターへの要望等がありますか？

印刷機のカラーコピーを格安で出来たら良いと思います。現在の機器ではカラーコピーが出来ないので、他に行かないといけなのが不便です。



丁寧にお答えいただき、人柄の良さを感じました。装いもおしゃれで笑顔が素敵な人でした。楽しいお話ありがとうございました。

by のん

ンターで、「郷土の民芸作家遺作品（高橋一智・浜田喜四郎・蒔苗忠治郎・齋藤航之介）と芹澤銈介型染カレンダー展」を開催し、ギャラリートークを交えて民芸と作家のあり方やくらしの中の美について深め合う機会となりました。

今年六月に青森で隣国韓国を中心に中国や東南アジアの民芸品を三百余点展示しました。

来年度は七月上旬に日本民芸協会夏期学校を本県でも開校することになりました。主な内容

として「津軽こぎん刺しと南部菱刺しについて」・「青森県の刺し子着調査」等の講義と公開講座では「鈴木大拙の禪の世界」・「柳宗悦の平和思想」を予定しています。併せて、県立郷土館で開催する「青森県の民芸展」と棟方志功記念館等の見学も計画しています。

お問い合わせ先

青森県民芸協会事務局

《電話・FAX》

0172・37・8441

相馬省子



## 市民参画センターからのお知らせ



※下記の催しの問い合わせ先・  
開催場所はいずれも市民参  
画センターです。

### ★さんかくセミナー

◇「弘前から世界へ」

講師：テフコ青森株式会社

代表取締役社長 中山 廣男

日時：8月11日（水）

18時30分～20時30分

### ★第7回市民参画センター交流まつり

日時：10月31日（日）10時～15時

内容：市民参画センターを利用している団  
体の活動紹介や市民との交流会など

対象：どなたでも入場できます。

### ★開館時間の変更

市民参画センターは、8月1日（日）～4日  
（水）の4日間、ねぶた運行による交通規制  
等のため、17時で閉館します。

### ★臨時休館

市民参画センターは、8月23日（月）・  
24日（火）の2日間、施設点検等のため  
休館します。

## 編集後記

出会って7秒間でその人の印象が決まってい  
まうと言われている。その印象を変えるには2  
時間じっくり話し合わなければいけないらしい。

じっくり話し合う時間もチャンスもない人は、  
第一印象のまま…なのかもしれない？ E I

## 本の紹介

### タイトル

「天使のかいかた」

なががわ ちひろ 作  
理論社 刊



### 天使のごはんは…おはなし？

児童書が並んでいる棚の前で、子どもが小さ  
かった頃を思い出し、懐かしさといまどきの本  
にも興味がわき立ち止まってみた。ちょっと不  
思議な題名とかわいい絵に惹かれて手にした「天  
使のかいかた」という本。ページをめくってい  
くうちに一気に引き込まれた。

主人公は「さち」。さちのお友だちはイヌやネ  
コ、ハト、チャボ、カメなどを飼っています。

でも、マンションに住んでいるさちは何も飼  
えません。ある日、はらっぱで天使をひろった  
さち。「ねえ、おかあさん、う～んと、ちいさな  
天使だったらかってもいい？」「いいわよ～」さ  
ちは天使をかうことにしました。

しかし、誰に聞いても天使のかいかたは分か  
りません。天使のかいかたを書いた本も見つかり  
ません。そこで、とにかくいろいろやってみ  
ることにします。分からないことは天使に直接  
聞きながら…。

とにかく絵がかわいい。ストーリーの面白さ  
はもちろん、特に気に入ったのは本のページの  
地色は何色かに変化するところである。場面の  
展開に合わせてさちの気持ちの変化や状態が紙  
の色に微妙に表現されているような感じがした。

夏休みに親子で読書を楽しんでみてはどうだ  
ろう。さちと天使の関係や、さちの学校での  
できごとから、元気と勇気と夢をもらえるかも  
しれない。「あのね、ひろわれたがっている天使は  
まだいっぱいいるんだって、さがしてごらん」  
というさちの最後のメッセージが印象的である。  
私も天使に会えないかなあ…。

by komori



## 弘前市民参画センター

〒036-8355 弘前市大字元寺町1番地13

TEL 0172-31-2500

FAX 0172-36-1822

開館時間 9:00～22:00

休館日 12月28日～1月3日

[http://www.city.hirosaki.aomori.jp/gaiyo/  
shisetsu/kyouiku/htm\\_sankaku/framepage.htm](http://www.city.hirosaki.aomori.jp/gaiyo/shisetsu/kyouiku/htm_sankaku/framepage.htm)

